

## イチゴ(バラ科)



イチゴが自分で作れたら、こんな良いことはないわね。  
でも栽培するのはちょっと難しいわよ。  
秋から来年の春までと栽培期間も長いけれど、ポイント  
をしっかり守ってチャレンジしてみて。  
宝交早生(ほうこうわせ)という品種が育てやすいわ。



### ▼栽培手順



1

イチゴ用の土を使うのがおすすめです。  
鉢底石を入れたプランターに土を入れて、植えつけの準備をします。  
冬をこす間は成長がとまるので、肥料が多いと逆に肥料にやられてしまいます。  
元肥はごく少くします。



2

苗の中心を「クラウン」といいます。  
植えつけるときに、ここをうめてしまうと、育ちません。  
浅めに植えて、クラウンに土をかけないように気をつけましょう。



3

植えつける前に、苗にたっぷり水をやっておきましょう。



4

1日1回水やりをして育てます。  
寒くなるにつれて、元気がなくなり、かれる葉も出てきます。  
心配になりますが、根は生きているので大事に育てます。



5

早春、苗がふたたび成長をはじめます。  
中心部分から新しい葉が出てきました。  
まわりの枯れた葉をきれいに取りのぞきましょう。  
そのままおいておくと、病気の原因になります。



6

2月の終わりから3月のはじめに、肥料をやります。



7

このころ、土の温度を上げると、ふたたび成長を始めます。  
保温カバーや土カバー、しきわらをしましょう。  
畑では株の部分に穴をあけた黒いビニールをかぶせます。  
これをマルチングと言います。



8

成長をはじめ、花が咲きだします。  
品種によって、白やピンクの花があります。





9

たくさん花がつきだしたら、2回目の肥料をやります。  
液肥にしてもいいでしょう。



10

花が終わると、中心がふくれてきます。  
きれいな形にしたいときは、やわらかいブラシでなでてやります。  
おしべの花粉をめしべにまんべんなくつけることができます。



11

成長が盛んになると、ランナーというつるがのびてきます。  
その先には、子株がついています。  
実を収穫するまでは、栄養を取られないように根元から切ります。  
収穫が終わって来年の株を残したいときは、ランナーの先の子株をポットに飛ばして植えます。  
根が出たら、肥料をやりながら秋の植え込みまでポットで育てます。





12

イチゴの形になっていますが、まだ青くてかたいです。  
赤くなって熟してくるまでもう少し待ちます。  
収穫するときは、くきの部分を切ります。



13

実が熟しはじめると、鳥やナメクジなどの害虫がやってきます。  
せっかくの実を食べられないように、ネットをしたり、台の上に置くなどして防ぎましょう。

